

Juichi WAKISAKA Race Report

JAF GRAND PRIX FUJI SPRINT CUP 2012

◆◆ SUPER GT 特別戦を 8 位で終える ◆◆

| No. 39 DENSO KOBELCO SC430 | | |
|----------------------------|------------|-------|
| Drivers | Qualifying | Final |
| 脇阪 寿一 | 10 位 | 8 位 |

開催日：2012年11月16日-2012年11月18日

サーキット：富士スピードウェイ（静岡県御殿場市、コース全長：4.563km）

レース距離：22周（100.386km）

入場者数：金曜予選8,000名、土曜決勝19,000名、日曜決勝41,300合計68,300名

2012年度 SUPER GT のシリーズ戦を終え、まだその余韻が残る中、静岡・富士スピードウェイにおいて SUPER GT の特別戦「JAF Grand Prix - FUJI SPRINT CUP 2012」が 3 日間にわたって開催された。

スprint方式のレースを 2 名のドライバーがそれぞれ単独で担当するという通常のレースとはひと味もふた味も異なるスタイルで実施される他、カテゴリーの異なるレースも同時開催されるというビッグイベントも今年で 3 年目。なお今大会では、イベントを通して東西対抗戦も行われ、脇阪はその西軍のキャプテンも務める。

予選を 10 番手で通過した脇阪は、秋深まる好天気の中で第 2 レースに挑み、終盤に迫力ある追い上げを披露。観客を魅了する走りで 8 位フィニッシュを果たしている。



■ 11月16日(金)

10:00-11:00 公式練習

14:35-14:55 公式予選（第1レース）

15:40-16:00 公式予選（第2レース）

【公式練習】 13番手 / 1'33.411

SUPER GTのイベントは第1、第2レースの2レースを実施。予選は金曜日、決勝は第1レースを土曜日、第2レースを日曜日に行うのだが、脇阪は第2レースに出走する。まず、大会初日の金曜日には午前中に公式練習を、そして午後からそれぞれのレース別に予選が行われた。

気温12度、路面温度21度とますますの天候の中、午前10時から1時間にわたり行われた公式練習。シーズン中のイベントとは異なり、GT300との混走のみで1時間を消化する。脇阪は早速ニュータイヤを装着して、路面コンディションを確認しながらクルマのセットアップを進める。結果、微調整を繰り返し、1分33秒411の自己ベストタイムをマークした。

チームではその後、第1レースを担当する石浦宏明選手にスイッチ。最終的に2選手で31周を周回したNo.39 DENSO KOBELCO SC430は、脇阪がマークしたタイムがチームベストとなり、総合13番手でこのセッションを終了した。



【公式予選（レース2）】 10番手 / 1'31.660

午後2時35分から第1レースの予選がスタート。チームは石浦選手を送り出し、1分31秒287をマーク。4番手という好位置につけた。

そして迎えた第2レースの予選。午後3時40分から20分間のアタックとなる。気温13度、路面温度14度と第1レースの予選時よりも数値が下がり、短時間のアタックでいかにタイヤを温め、タイムアップするかがカギとなった。なお、今回のレースではタイヤのマーキングはなく、持ち込めるタイヤ本数のみ制限（ドライ8セット、レイン10セット）があるだけ。ニュータイヤでコースインした脇阪は、コンディションを考慮し、タイヤに熱を入れることからはじめ、まずは1分32秒415の自己ベストをマーク。その後ピットインし、新たにタイヤを投入することに加え、車両に微調整を施し、再度アタックへと向かった。残された時間はおよそ7分半。続々と他車もタイムアタックへと突入し、コース上は渋滞。しかしその中で脇阪はベストラップを更新する好走を見せ

て、1分31秒660をマーク！しかし他車もタイムアップを果たしたことから、脇阪は10番手からレースを迎えることになった。

予選を終えた脇阪は、レース前週に岡山で開催されたタイヤテストのことを振り返りつつ、コメント。「岡山でのテストを経て、クルマが今どんどん進化をしている最中です。いい方向に向かっているのですが、アタックではタイヤの使い方に石浦と僕の双方がちょっと悩むことになりました。その部分が少しマイナスに働いたのかもしれません。結果、アタックでは1周をうまくまとめ切ることができなかった、というのが本音です。そこが残念なのですが、なんとか決勝では力強く追い上げたいですね」と、現状を踏まえつつ、決勝での奮闘を誓った



■ 11月18日(日)

15:30 - 決勝（22周）

【決勝】8位

脇阪のチームメイトである石浦選手は第1レースを担当。決勝レースは大会2日目の土曜日午後から実施された。しかしあいにくのヘビーレイン。午後3時15分にスタートが切られたが、薄暗い中、降り止まぬ雨で12周目に赤旗中断となってしまった。レースはこの赤旗を以て終了という結末を迎えた、No.39 DENSO KOBELCO SC430は11位でレースを終えた。

迎えた大会3日目。最終日の日曜日は前日とは打って変わり、朝からすっきりと晴れ渡り、青空がサーキットを包み込む上天気に恵まれた。午前中には大会セレモニーが行われ、脇阪も西軍のキャプテンとして選手宣誓を担当するなど、忙しいスケジュールをごなした。

GT500の第2レースはこの日最後の大一番。午後3時30分、気温13度、路面温度14度の中、22周およそ100kmに渡る戦いが始まった。距離が短いため、タイヤ交換や給油というピット作業はナシ。さらに通常のシリーズ戦とは異なり、スタートはダミーグリッドからのスタンディング方式が採用されるスプリントカップ。毎年恒例のスタートではあるが、GTカーでのこのスタートはテクニックを要する。さらに装着したタイヤにおいては、どういった路面コンディションに見合うのか、がメーカーによって異なる。序盤はタイヤの温まりに時間を要するため、ペースを上げることはやや難しいものの、中盤以降しっかりと PUSHできるというミシュランタイヤの特性をいかに引き出すか、それがカギとなった。

脇阪はオープニングラップで14番手とポジションを下げたが、タイヤに熱が入ると、本来の力強い走りで周りを圧倒。着実にチ

ヤンスをモノにしてポジションアップを果たしていった。ペース良く周回を重ねる脇阪。終盤に入ると順位はシングルまでポジションアップ、目前に No.18 HSV-010 が迫っている。8 番手からあとひとつ、7 位の座を射止めのべく、最後の最後まで攻めの姿勢を貫いた。惜しくも逆転まであと一步届かなかつたが、魅せるレースを存分に披露し、8 位でチェックカードフラッグを受けることになった。



このスプリントカップレースを以て、今シーズンの全てのレースを終えた脇阪。「スタート自体はなんら問題なく、出だしも良かったんですが、クラッチペダルが一瞬焼き付いたかと思い、クラッチをつないだところ、ホイールスピンを喫してしまいました」とスタートを振り返った。少し出遅れたとはいえ、そこから怒濤の追い上げが始まり、力走を続けたが、「レースでは全体的にグリップ不足に悩まされましたね。それでもタイヤが温まってからは前へ、前へと精一杯ガンバって走りました。しかしながら、自分自身としてはもう少しパシッと目立つパフォーマンスを皆さんにお見せしたいという気持ちが大きかったので、申し訳ない気持ちです」と、シーズン最後のパフォーマンスを自己評価した。一方、シーズンは終わったが、脇阪の次なる挑戦はまだ継続中。これに対しては、「まず、2012 年のシーズンも応援いただきまして、本当にありがとうございました！ 今日のレースをもって今シーズンのレースは終了しましたが、来年は、もっともっと力強い脇阪寿一となってまた皆さんの前に戻ってくるためにも精一杯努力し、トレーニングしてガンバっていきたいと思います」とさらなる飛躍を誓ってくれた。

様々な思いをもって戦い抜いた 2012 年。2013 年の脇阪の新たな活躍に期待したい。



